

## 原 耕平先生—追悼の言葉



故 原 耕平先生

長崎大学第二内科第5代教授で長崎大学名誉教授原 耕平先生が平成28年7月3日の早朝にご逝去されました。原先生は5年前から前立腺癌を患われ、特に1年半ほど前から体調が悪くなられまして、長崎大学病院とご自宅で療養しておりましたが、最期は大学病院内でとても安らかに旅立たれました。余人に代えがたい偉大なる原先生を亡くしたことは、長崎大学第二内科の同門・医局員にとって大きな悲しみであります。

原先生は昭和5年3月に忠清南道大田府（現 韓国大田広域市）でお生まれになっておられます。終戦により、佐世保に引き揚げられ、佐世保中学校、佐世保南高等学校を経て、長崎大学医学部に入学、昭和30年に卒業されておられます。長崎大学細菌学教室で学位を取得され、その後、長崎大学第二内科の助手、講師を経て、昭和49年に長崎大学第二内科の第5代教授となられ、その後20年と10か月勤められました。私も原先生が教授であられた昭和60年に第二内科に入局させていただきました。その頃の第二内科は原先生のお人柄により、毎年20

～30人と多くの先生が入局され、日本の大学の中かで最も大きな医局の一つでありました。また、特に感染症部門などにおいて、日本を代表する多くの先生方が育ちました。その頃の第二内科は原先生から時には厳しくも暖かいご指導を受け、臨床や研究、教育が進められていました。このようなしっかりした指導体制があっただけではなく、医局のレクリエーション（花見、野球、海水浴、麻雀大会など）なども充実しており、医局生活をとても楽しく過ごすことができたことでこれだけの人材が原先生のもとに集まったのだと思います。

ご自分の退官記念業績集で原先生は教授をされた21年間は大きく分けて3つの時期に分かれると書かれておられ、最初の3年程度は学園紛争に大変ご苦労されたそうです（第1期）。その後、学園紛争が落ち着くと医局内で呼吸器、消化器、循環器、腎臓のグループを組織され、グループごとに積極的な臨床と研究が行える体制を作られました。特に原先生は臨床感染症の領域に力を入れられ、ケニア国の Rift Valley Provincial General Hospital での熱帯病

研究（昭和41年3月から昭和42年5月まで）や英国でのウイルス感染症学の研究（昭和47年10月から昭和48年9月まで文部省在外研究員）で培った能力を生かされ、教授となられた後も、マイコプラズマやレジオネラ肺炎、肺結核、肺真菌症を中心にその病態、診断、治療を探求され、日本での臨床感染症学を体系付けられました（第2期）。また、原先生が教授をされていた時代は多くの抗菌薬開発がなされており、抗菌薬の開発がほとんどなされなくなった現在と比べると格段の差を感じます。この間、第68回日本感染症学会総会など多くの学会総会の会長をなされ、これらの業績により日本化学療法学会の第5回（'94年）志賀潔・秦佐八郎記念賞を受賞しておられます。また、先生は常に“患者の訴えを良く聞き、丹念に診察せよ”とおっしゃっておりましたが、臨床では、呼吸器感染症分野だけでなく様々な分野に精通しておられ、外来診察や回診を通してわれわれに臨床医学の醍醐味を指導していただきました。

教授としての最後の時期には医学部長を2期、4年間勤め上げられ、今度は医局を超え、長崎大学医学部全体の進歩に貢献され、6年一貫教育や同窓会館の建設、また学生用としての体育館や講義実習棟の建設などを行われておられます（第3期）。この21年間に400名を超える医師が第二内科に入局し、原先生の薫陶を受け、地域の臨床医として、また大学等の研究者として、立派にその使命を果たしておられます。原先生時代の教員やその頃の大学院生や医員であった多くの先生方が全国各地の大学教授になっておられることも特筆すべきことだと思います。

退官後もとてもお元気で、長崎短期大学の教授職や後輩になられる泉川欣一先生の病院の名誉院長となられ、島原で臨床を続けられながら、医局行事や学会にもよく参加されておられました。平成21年にはこれらの業績により、瑞宝中綬章をお受けになられています。約3年半前、私が産業医科大学の教授時代に日本呼吸器学会九州地方会を北九州でさせ



ていただいた時も、学会に参加していただき、とても喜んでいただきました。また、平成27年に長崎大学第二内科に第7代教授として戻る時も「自分のカラーを出して医局を運営してください」との温かいお手紙やありがたいお言葉をいただきました。また、長崎大学第二内科では河野 茂先生が第6代目教授になられてから毎年年報を作成しておりますが、原先生はとても絵がお上手で、その表紙には毎回原先生の絵が載せられております。今年の年報の表紙が原先生の最後の絵になったことはとても残念ですが、この絵を「桜花 我人生の最高の絵 原 耕平」という書と共に私にプレゼントして戴きました。教授室に飾っております。原先生からのお言葉のように原先生が大きく作られた長崎大学第二内科を、先生の教えを受けた者の一人として、私のカラーを出していきながら、守り、少しでも発展させていきたいと思っております。先生から賜りました多くの教えと思い出に心から感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科  
展開医療科学講座 呼吸器内科学分野 教授  
迎 寛



